

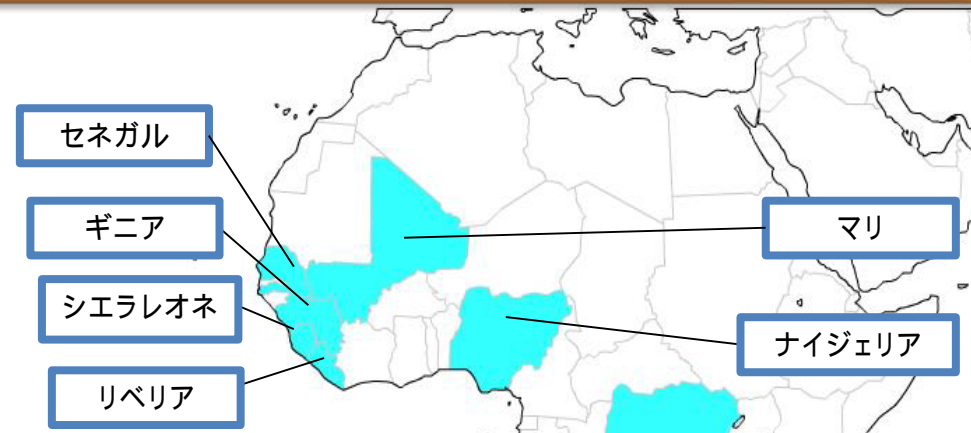
# 海外でのエボラ出血熱等の流行状況

# 西アフリカでのエボラ出血熱の流行

## エボラ出血熱の発生状況

WHO報告(2016年6月10日)、CDC報告(2016年4月13日)

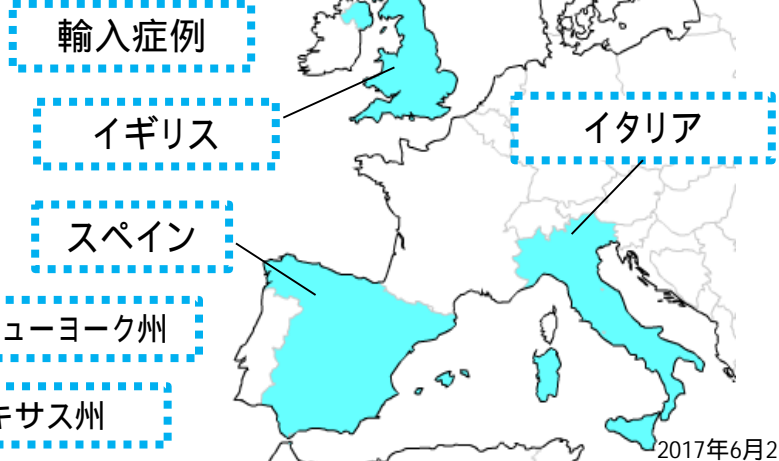
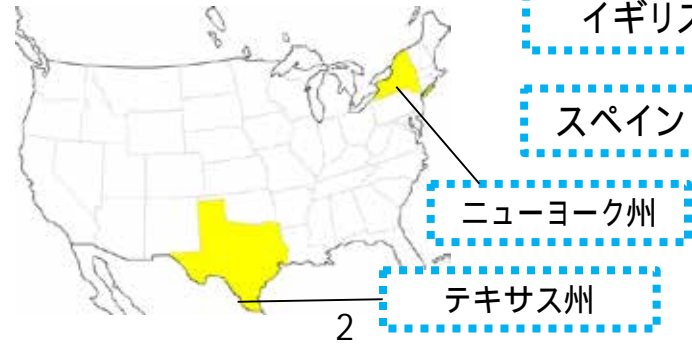
西アフリカ3カ国	患者数	死亡者数
ギニア	3,814	2,544
リベリア	10,678	4,810
シエラレオネ	14,124	3,956
西アフリカ3カ国以外で終息 が宣言された国 / 限定的な 感染が確認された国	患者数	死亡者数
マリ	8	6
ナイジェリア	20	8
セネガル	1	0
スペイン	1	0
アメリカ	4	1
イギリス	1	0
イタリア	1	0
<b>合計</b>	<b>28,652</b>	<b>11,325</b>



ギニアでは2016年6月1日に、  
リベリアでは2016年6月9日に  
再度終息が宣言された。

コンゴ民主共和国  
西アフリカの流行とは別のもの  
である(流行株が異なる)。

## アメリカ合衆国



- 感染終息(2014年8月にOHEIC宣言)**
- 2014年 10月17日にセネガル、  
10月19日にナイジェリア  
11月21日にコンゴ民主共和国  
12月2日にスペイン
  - 2015年 1月18日にマリ、  
3月10日にイギリス  
7月20日にイタリア  
12月29日にギニア
  - 2016年 1月14日にリベリア、  
3月17日にシエラレオネ  
3月29日PHEICを解除

# コンゴ民主共和国における8回目のエボラ出血熱発生

2017年7月3日更新

## 【概要】

- ・ 2017年4月22日以降、コンゴ民主共和国（旧ザイール）北東部のバ・ズエレ州でエボラ出血熱の患者が発生し、対策が行われている。
- ・ 確定例は5月17日が最後。5月21日にPCR陰性が確認されている。

→42日間（潜伏期間21日間の2倍）の観察期間を経て、7月2日に終息宣言発表。

宣言後、90日間の強化サーベイランスが実施予定。

- ・ 国際的には伝播リスクは低いとされる（WHO/AFRO報告）。

## 【厚生労働省の対応】

- ・ 厚生労働省としては、一般国民に対し、ウェブサイト等を通して注意喚起を行うとともに以下の内容の事務連絡を発出済み。
  - > 検疫所より海外渡航者への注意喚起を行うこと
  - > 医療機関等に対し、当該地域からの帰国者の診察の際にはエボラ出血熱を念頭に置くこと
  - > 国土交通省より、空港会社（5社）、航空会社（128社）、日本旅行業協会と全国旅行業協会に参加している事業者を通して海外渡航者に対して注意喚起を行うように依頼

### < 今回の症例数 >

症例： 8名

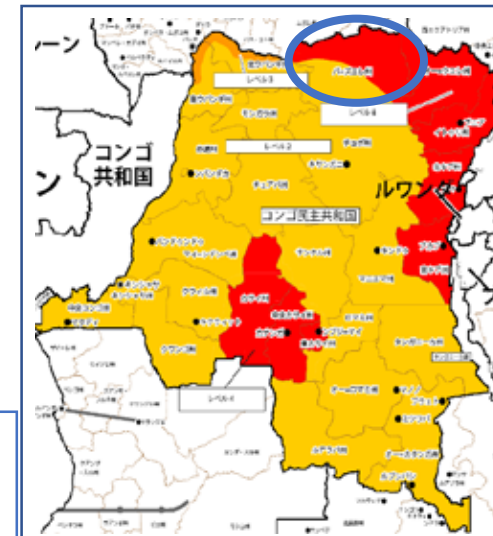
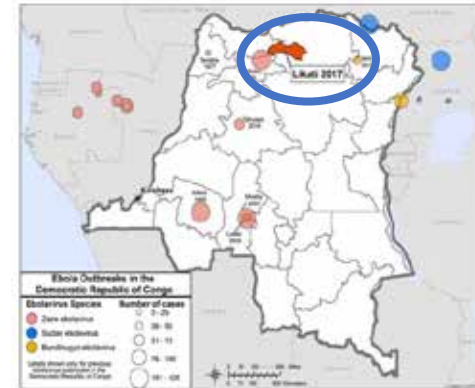
- ・ 確定 5名  
(確定例最終発症日5月11日)
- ・ 疑似症 3名
- ・ 疑い例 1名

死亡： 4名

(致命率：50%)

接触者登録： 583名

- ・ 21日のフォロー期間完了：357名
- ・ 除外：226名  
(接触元がエボラではなかった)



レベル4 退避勧告  
レベル3 渡航中止勧告  
レベル2 不要不急の渡航中止

治安の悪化による退避勧告  
(エボラ出血熱とは関係はない)

# ナイジェリアにおけるラッサ熱

2017/05/31時点

## 基本情報

・米国CDCによると、西アフリカ諸国(ナイジェリア、リベリア、ギニア、シエラレオネ、マリ、ブルキナファソ、コートジボワール、ガーナ、トーゴ)では年間10万～30万人のラッサ熱患者が発生し、5,000人が死亡していると推計される(調査が十分できないため概算)。

## 背景

- ・WHOによると、ナイジェリアでは2015年8月～2016年5月17日の約9ヶ月間にラッサ熱患者273人と、そのうち149人が死亡しているとの報告があった。これらの患者165人と死亡89人は検査による確定例であった。
- ・ナイジェリア当局によると、2016年1年間に921人の疑似症が発生し、109人の患者が検査で確定した。これらのうち119人が死亡したとされる。また、2016年初から22週間で717人の疑似症が発生し、71人の患者が検査で確定した。これらのうち87人が死亡したとされる。

## 現状

・ナイジェリア当局によると、2017年初から22週間で298人の疑似症が発生し、64人の患者が検査で確定した。これらのうち49人が死亡したとされる。

